

2011年度

科目名	漢方医療薬学Ⅱ				
担当教員	谿 忠人				
配当	薬学6		コード	53072	
開期	前期	講時	金曜日3限	単位数 2	
授業テーマ	【選択】現代医療(とくにセルフメディケーション)で漢方医学・漢方処方を応用するための基礎知識を修得する。				
目的と概要	漢方医療薬学Ⅱは薬局店頭で一般用漢方製剤を適正に使用する基礎知識を講義します。授業には講義と少人数討論(SGD)が含まれます。SGDでは相談者と薬剤師に分かれて薬局店頭における相談内容を討議し、各自に発言を求めて総合討論します。 到達目標は薬学教育モデル・コアカリキュラム(コアカリ)のC7(3)に記載されています。この講義はコアカリC13「薬と疾病」、C14「薬物治療」、C18「薬学と社会」(3)OTC薬と関連します。現代医療の病態生理や西洋薬の薬理と対比して漢方薬・処方の作用や適応症を総合的に理解してください。				
成績評価法	SGDの態度と討論結果のレポート(10点×4回)と試験(60点)の合計点で評価します。				
テキスト	日本薬学会(編)／スタンダード薬学シリーズ3「化学系薬学Ⅲ.自然が生み出す薬物」 ／東京化学同人(4回生の「漢方医療薬学Ⅰ」で使用した教科書と同じ)				
参考書	第十五改正日本薬局方解説書の分冊(医薬品各条:生薬等)／廣川書店				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 天然薬用資源学との連携: 漢方医療薬学Ⅱで講義する生薬の規格や成分や薬理は天然薬用資源学で講義しました。これらは今回の試験の出題範囲です。 2. 漢方医療薬学Ⅰとの連携: 漢方医療薬学Ⅱの履修者は、漢方医療薬学Ⅰの単位を修得していることが望ましい。 3. SGDの構成員を固定し役割分担を変更しながら実施し評価しますので、休まないようにしてください。 4. 配布資料と教科書は毎回持参すること: 配布資料に基づき教科書の該当する頁を指示しながら講義します。 5. 重要生薬の整理: 各授業で回覧する生薬の局方の規格、指標成分の構造式、生合成経路、薬理作用、適応症などをノートに整理すること。(重要な出題範囲です) 6. 掲示板を見ること: 日程変更などは薬学部棟1階の掲示板で通知します。 7. 試験の方針と準備: 試験は文章問題と薬剤師国家試験類題を出題します。試験は一切の資料の持ち込みは不可です。 8. 到達目標(SBOs)とコアカリ対応番号は「薬学部学習マニュアル」参照してください。 				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コアカリ対応番号	学習領域
1	講義	漢方医学の基礎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢方医療薬学を学ぶ意義を説明できる 2. 現代医療の中の漢方薬を概説できる(薬剤師が扱う漢方製剤と漢方煎剤) 3. 漢方エキス製剤と煎剤の特徴を比較できる 	独自 C7(3) C7(3)	知識 知識 知識
2	講義	漢方医学の歴史 漢方薬・民間薬・西洋薬 受診勧奨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢方医学と漢方薬の歴史を概説できる 2. 漢方医療と民間療法の相違を概説できる 3. 漢方薬と西洋薬の利用法の相違を概説できる 4. セルフメディケーションにおける薬剤師の受診勧奨業務を説明できる 	独自 C7(1) C7(3) C7(3)	知識 知識 知識 知識
3	講義	漢方医療の診察 漢方医学の診断 処方・生薬と証	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢方医療の診察(四診)を概説できる 2. 漢方医学の診断(証:虚実・寒熱)を概説できる 3. 処方・生薬と証の関係を概説できる 4. 漢方処方の成り立ちを概説できる(1)(補剤、瀉剤、散寒剤、清熱剤) 	独自 C7(3) C7(3) 独自	知識 知識 知識 知識
4	講義	証(六病位・病期) 処方・生薬と証 処方の成り立ち 処方分類	<ol style="list-style-type: none"> 1. 証(六病位・病期)を概説できる 2. 処方・生薬と証(病期)の関係を概説できる 3. 漢方処方の成り立ちを概説できる(2)(桂皮剤、麻黄剤、柴胡剤) 	独自 C7(3) 独自	知識 知識 知識

5	講義	処方と適応症 処方の応用	1. 処方・生薬と証(感冒)の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 感冒に用いる処方の応用を概説できる	C7(3)	知識
6	講義 SGD	処方と適応症と証 処方の応用	1. 「処方と適応症と証」のまとめ(1)	C7(3)	知識
			2. 感冒症候群のセルフメディケーション(症例検討)	独自	知識 態度
7	講義	証(気血水の失調) 処方・生薬と証 処方の成り立ち 処方分類	1. 証(気血水の失調)を概説できる	C7(3)	知識
			2. 処方・生薬と証(気血水)の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 漢方処方の成り立ちを概説できる(3)(気剤、血剤、水剤)	独自	知識
8	講義	処方と適応症 処方の応用 処方の成り立ち 処方分類	1. 処方・生薬と証(消化器症状)の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 機能性胃腸症に用いる処方の応用を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の成り立ちを概説できる(4)(補気剤、理気剤、化痰剤)	独自	知識
9	講義 SGD	処方と適応症と証 処方の応用	1. 「処方と適応症と証」のまとめ(2)	C7(3)	知識
			2. 消化器症状のセルフメディケーション(症例検討)	独自	知識 態度
10	講義	処方と適応症 処方の応用 処方の成り立ち 処方分類	1. 処方・生薬と証(高血圧随伴症状)の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 高血圧随伴症状に用いる処方の応用を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の成り立ちを概説できる(5)(理気剤、駆才血剤)	独自	知識
11	講義	処方と適応症 処方の応用 処方の成り立ち 処方分類	1. 処方・生薬と証(婦人更年期障害)の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 婦人更年期障害に用いる処方の応用を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の成り立ちを概説できる(6)(理気剤、駆才血剤、補血剤、利水剤)	独自	知識
12	講義 SGD	処方と適応症と証 処方の応用	1. 「処方と適応症と証」のまとめ(3)	C7(3)	知識
			2. 不定愁訴症候群のセルフメディケーション(症例検討)	独自	知識 態度
13	講義	現代医療と漢方薬 漢方薬の副作用、 使用上の注意	1. 現代医療における漢方薬の適用を概説できる	C7(3)	知識
			2. 漢方薬の副作用や注意事項を概説できる	C7(3)	知識
14	講義 SGD	処方と適応症と証 処方の応用	1. 「処方と適応症と証」のまとめ(3)	C7(3)	知識
			2. セルフメディケーションにおける症例検討	独自	知識 態度
15	総括 講義	漢方薬と漢方医学 の基礎(総括)	1. 現代医療の中の漢方医学と生薬と漢方処方	C7(3)	知識

授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C7(1) C7(3)	講義 SGDと講 義	講義室	1	配付資料	90分×11回 90分×4回